

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092900101		
法人名	社会福祉法人 ひじり会		
事業所名	グル♪プホームさくら2番館		
所在地	福岡県小郡市八坂489-1 (電話) 0942-73-0084		
自己評価作成日	令和2年12月20日	評価結果確定日	令和3年3月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和3年1月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームさくら2番館は、小郡市八坂の味坂小学校のグラウンドの真向かいにあります。2階建ての2階に位置し、1階には、看護小規模多機能型居宅介護があります。居室は全室南向きで明るく広いリビングでは利用者様が自分のペースでゆったりと生活できるよう心と体快適な空間となっています。私達が大切にしている思いは「地域のために 地域とともに」です。ご利用者様が、住みなれた小郡の地で、地域とともに、安心してお過ごしいただけるように、そして、私たちスタッフが、地域とともに、ご利用者様をサポートしていくことができるように、この理念をスタッフ全員で共有しています。そして、ご利用者様一人一人の生活背景を大切にし、これまでの生活を可能な限り継続していただけるように又、生きている喜びを感じていただけるよう役割を見出し生き甲斐を持っていただけるよう支援に努めています。現在、コロナ禍で難しいところもありますが、できるだけ願いや思いを実現できるように支援しています。また、長い廊下を生かした歩行訓練など、個別にリハビリメニューを考え取り組んでいます。利用者様の笑顔を見る事がスタッフにとって仕事の喜び充実感となります。もっとたくさんの笑顔が見れるよう努力していきたいと思っております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、田園が多い自然豊かな町の住宅街に位置している。木造建ての2階にあり、1階には看護小規模多機能型居宅介護事業所や多目的室等がある。事業所は地域福祉を担う多くの事業所を持つ法人の一施設で、法人が有する研修制度や委員会活動等でサービスの質向上のより高みを目指している。職員は日常的に利用者をよく理解し、利用者の尊厳を大切にする意識付けがされており、新型コロナウイルス流行の現在も、職員の工夫で利用者の安心と生きがいの発見に向けた取り組みが展開されている。職員の労働環境の整備も行き届いており、利用者との余裕ある関りが可能となり、職員同士のコミュニケーションも良好であることから、今後、益々期待できる事業所である。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域のために 地域とともに』の法人の理念を職員研修会で全員で共有を行っている。又、「家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活が送られる様思いやりを持って寄り添いながら支援します」という事業所理念を掲げ、支援するよう心掛けている。事業所の理念はユニット内などに掲示しいつでも目に入るよう工夫をしている。	法人全体の理念と事業所独自の理念を職員間で共有し、日々、理念の具現化に向けて取り組んでいる。一人一人の利用者に対し、生活機能の低下を予防しながら、生きがいや喜びに繋がる支援に努めており、その人らしい暮らしに向けた個別対応に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の移動売店の販売所として施設を提供し利用者様も売店を利用するなどして地域の方々と交流していたが、コロナウイルスが流行するとともに地域との交流が減ってきている現状である。	毎年、地域で開催される夏まつり等に参加している。近隣の保育園児の訪問や中学生の職場体験もある。更に事業所内を地域の移動売店の販売に開放する等、地域住民と良好な関係性が築かれている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本来であれば、運営推進会議などで話し合いを行い、地域の皆様に向けた介護教室を開催するなどを計画していたが、コロナ禍において、難しい。12月にコミュニティセンターにてグループホームと・看護小規模について説明させていただく機会を頂き交付することが出来た。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響で運営推進会議は書面上での開催になることが多かった。日常生活の状況や行事等の報告を、意見や要望を頂きサービスの向上に努めている。11月には開催し、意見交換を行った。	2ヶ月に1回開催されていた運営推進会議を現在は書面にて行い、各参加予定者から意見を聞くようにしている。事業所からは、利用者の状況や取り組みに加え、新型コロナウイルス感染予防対策についての発信も行っており、市町村職員からのアドバイスや意見を聞いている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所担当職員に参加して頂き、意見等を頂いている。書面上の開催の際は電話等で話をしたり、相談等あるときには市役所に直接お話しに行き協力関係を築けるよう取り組んでいる。	事業所は市町村担当者と電話の他、窓口にて情報交換をし、主に運営上に関する助言や指導を受けている。また、事業所管理者は市の第8期高齢者福祉計画に携わる等、市町村と良い協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人本部開催の身体拘束廃止委員会に参加し、常日頃から拘束が行われていないか確認し身体拘束がないよう努めている。拘束の具体的な行為について新人研修や勉強会・職員研修会等で学ぶ機会を設け、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所は身体拘束廃止委員会を中心に研修を行ない、ゼロロックも含め身体拘束ゼロを目指し取り組んでいる。利用者の外出傾向の把握と、利用者見守りや付き添いも行いながら、同建物内の看護小規模事業所の職員や、近隣の美容室とも見守りや連絡してもらえる関係にある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されないよう注意を払い、防止に努めている	身体的虐待のみならず心理的虐待等が行われないか確認し、未然に防ぐよう取り組んでいる。また、利用者の尊厳を傷つけたり残存機能維持の機会を奪ったりするような取り組みがないか確認している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については職員研修会や勉強会で制度について学ぶ機会を設けている。また、制度についていつでも触れることが出来るようにパンフレットを常備している。成年後見人についても資料を閲覧出来たり学ぶ機会を設けている。	権利擁護に関する制度について、必要に応じて家族に説明をしている。法人内で行われる月例の職員勉強会にて研修が行われ、全職員が制度の理解ができるように伝達研修が設けられている。パンフレットや参考資料はいつでも閲覧できるように、準備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等書面にて提示し、内容の説明を行って不安のないように質問や意見を聞きながら対応をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口を重要事項説明書を通して、入居時に説明している。また、ご家族が要望等を気軽に話せる関係性の構築に努めている。コロナウイルスの影響で面会の制限時、家族の要望によりタブレット端末を利用しての面会を行った。	職員は、日常的に利用者や家族の思いを聞くようにしている。利用者からの要望で料理カブを作り、また所持金の管理をしたいという要望も出されている。家族からは個別ケアに対する要望や、タブレット面会の要望などがあり、可能な限りこれらを運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファレンスやユニット会議等で職員からの提案や意見等を集め、利用者本位の運営が出来るように努めている。日頃より職員同士のコミュニケーションが円滑で言い合える職場環境は整っている。賞与時の評価表などにも記載している。	管理者は、職員からの利用者の支援方法に関する提案に対し、ミーティングだけでなく、いつでも耳を傾けるようにしている。行事の企画も職員が行い、事業所は職員の気づきやアイデアを取り入れている。余裕ある人員の確保と職員の意見を反映させた運営により、職員が安心して働ける環境が整備され離職率も少ない。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が意欲をもって職務に当たることが出来るように職員も楽しみや、やりがいを持てるよう努めている。状況に応じて面談したり普段の会話から心身の健康管理に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に当たっては広く募集を行い、公正な採用選考を行っている。幅広い年齢の職員がご利用者に係わることでご利用者の生活環境が良くなるように努めている。	法人が職員の募集や採用にあたっており、年齢や性別を条件にしていない。事業所は希望する職員を正規雇用とし、定年制度を設けていない。また年に2度の自己評価、人事課により、サービスの質の向上と共に職員の希望に応じたキャリアアップや異動の希望を実現できる機会も設けられている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員にはご利用者の尊厳を守ることを教育している。カンファレンスでも一人一人の尊厳を大切にケアが行われているか確認している。	事業所は法人で行われる職員研修で高齢者等の人権教育を学ぶ機会を設けている。また事業所内で毎月のカンファレンスを通して、職員間で認知症の人権意識に関する確認を行っている。更に職員がいつでも学べるように、障害者の人権、外国人の人権など様々な人権に関する資料も準備されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人本部で職員研修会を行っている。また、新人職員にはエルダー制度や研修を行いスキルアップに努めている。頃ねウイルスの影響で研修棟も少ない状況であるが出来るだけ外部の研修にも参加できるように努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会があれば、状況に応じてスタッフ参加してもらうなどの取り組みを行ってきた。しかし、今の時期、研修会や交流についてはできていないので、今後頑張って質の向上を目指したい。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の生活歴や現在の様子、また、不安や要望等面談を通じて、把握するよう努めている。また、担当のケアマネージャーやソーシャルワーカーと連携し、ご利用者のニーズに応じられるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談がある場合には、ご利用前に必ずホームに来館していただき説明を行うとともに不安や希望もお聞きしている。また、積極的にコミュニケーションを図るよう心掛け、意見や要望が言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所のサービス以外の選択肢も視野に入れ、必要とされるサービスの情報が提供できるようにケアマネージャーやソーシャルワーカー等と連携を図っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やご利用者様のこれまでの経験を生かした知恵などを通して支えあう関係であるように努めている。調理のお手伝いやその他、ご協力いただきながら共同生活を営んでいる。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃よりご利用者様の状況をお伝えするよう努めている。また、思いや意見なども、お聞きすれば可能な中で、ケアの変更などにつながるように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の近所の方などのコミュニケーションは、なかなか難しいが、入居後もかかりつけ医への病院受診を行うなど、これまでの生活を継続した、馴染みの関係を支援している。	馴染みの人や場所について、家族から情報を収集し、職員間で共有している。入居後も希望する医療機関やかかりつけ医へ継続受診の同行を行い、医療関係者など馴染みの人たちと出会う機会を設け、コロナ禍における現在は、家族や知人の電話や、年賀状を書く支援を行う等の、利用者の馴染みの関係の継続に努める。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立される利用者がいらっしやらないようにレクリエーション等への声掛けを行い他の利用者との交流が出来るように促している。また、難聴等でコミュニケーションを図ることが難しい場合にはスタッフが間に入り円滑にコミュニケーションが図れるよう配慮し利用者同士が良い関係性を築けるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、ご相談等を出来るよう関係性に努めている。利用者様のみならずご家族のフォローする関係が継続していくことを説明し安心していただけるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人ひとりの希望される暮らしを本人や家族の思いや意向を聞き取っている。本人から直接思いを確認できない場合は日ごろの係わりの中から本人の思いや意向を感じ取って利用者本位の個別ケアが出来るように検討している。	日々の関りの中で、利用者の要望や意向の把握をしている。意思の疎通が難しい利用者には、声かけ時の表情や行動から利用者の思いを汲み取るようにしている。「散歩に行きたい」「アイスクリームを食べたい」等利用者の要望に対応するようにしている。夫のお墓参りを希望していた利用者につき添い、お墓参りに行ったことがある。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、趣味や特技、これまでの生活スタイル等、ご利用者様やご家族から情報を集め、できる限りこれまでの生活を継続し、その方らしい生活が出来るよう取り組んでいる。利用前のケアマネージャーやソーシャルワーカーとの連携を図るよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前に聞き取りした情報を基本とし、生活していただく中で利用者様と接し、具体的な情報が収集できるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画には、かかりつけ医や職員等の意見を取り入れ、反映できるよう、また、本人や家族の希望に添えるようなプランを作成している。	担当職員やケアマネージャーが、本人・家族や職員、主治医の意見を反映しながら、個別具体的な介護計画を作成している。3~4ヶ月に1回介護計画の見直しをしている。入院等状況変化時も随時見直ししている。介護計画作成時や見直し時は、家族に説明をして了承した署名と押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中のケアの実践や気づきなどエピソードで記録などを記入している。職員全員が情報を共有し介護計画を見直ししているように努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の生活の中での変化を、カンファレンスなどを通してアセスメントしている。良いと思うことは、意見を交換し合って、ご利用者のプランにつなげられるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、コロナ禍の折、地域資源を生かすといった内容の活動の実施できていない。今後は、これまでの生活様式が通用するかも不透明であるため、検討しながら支援していきたい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との連携を大切にしつつ、ご利用者や本人様が希望される入所前から利用されている医療機関の受診をして頂いている。また、緊急時における協力病院との体制についても説明をしたうえで、安心して希望に添える医療機関を選択している。	利用開始前に、利用者のかかりつけ医や受診希望病院を確認している。今までのかかりつけ医受診することがほとんどである。市内の病院受診は、職員が付き添う。市外の場合は、家族に受診付き添いの協力を依頼している。受診前に日頃の状況や医師に聞いてほしい内容を家族に伝え、受診後家族に確認している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1階施設の看護師等と連携を図り、些細な事でも相談し助言を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、医療機関（ソーシャルワーカー・看護師）、ご家族と密に情報交換を行い早期退院が出来るように連携している。また、退院時医師や看護師等からの助言を頂きながらケアを行い再発防止に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアの経験はないが、入居時に重度化や終末期の在り方についての説明を行っている。利用者やご家族の状況変化に細かな調整や協力病院やかかりつけ医等と連携し、重度化や終末期に対応できる体制を取ることが出来るよう努めている。	現在、事業所での看取りはしていない。重度化や終末期のあり方について、契約時に家族に説明し、文章で同意を得ている。状況変化時に、事業所に対応できる支援について詳しく説明し、利用者や家族の意向を大事にしながら、職員や担当医師、利用者・家族と話し合いを行い、方針を共有化している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを通して、急変時や事故発生についての確認を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの作成を法人で行うことで見直しを行っている。定期的に防災訓練を行っている。地域との連携は、今後の課題です。	災害マニュアルは作成してある。年2回避難訓練を行っている。夜間想定と日中想定と1回ずつ実施している。避難経路の確認・避難訓練・消火器の使い方・消防署への通報を訓練で行っている。運営推進会議で、避難訓練の声かけをしているが、地域住民の参加はない。非常用備品は事業所内に準備している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時に、個人情報保護についての確認を行っている。訪室、入浴、排泄等時には、プライバシーを損ねることがないように声掛けや対応に心掛けている。プライバシーに関することは大声で話したりすることを慎むように努め、職員間でも注意しあっている。	トイレの声かけをするときは、周囲の人が気づかないように、さりげなく声かけをする、入浴は1対1で対応する等プライバシーに配慮をしながら、介護をしている。利用者の個人的な事を他利用者や外来者の前で話さないようにする等個人情報保護に心がけている。管理者はミーティングでプライバシー保護について、意識づけをするようにしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を尊重し、傾聴や自分の意思や希望を伝えることが出来るよう寄り添いコミュニケーションを図っている。また、意思の表現が少ない方も可能な限り自己表現ができるよう声掛けの工夫や表情から読み取る等の取り組みを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	催事以外、特に日課を決めずにその日の天候やご利用者様の希望に沿って少人数もしくは個別の対応が出来るように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等、本人の好みの服を頂ける等支援している。髪型に関しても本人の希望に沿ってのスタイルになることを重視している。自分で訴えない方も、定期的にカットサロンを利用できるよう配慮している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の状況に応じて、食事の準備や片付け・野菜の皮むきなどのお手伝いを依頼している。季節を感じていただけるような食材を献立に取り入れ、ご利用者様の意見を頂きながらマンネリ化しないよう改善に努めている。また、自分で好きなお弁当を頼んでいただく機会を設け、普段とは違う食事の雰囲気作りも取り入れてみた。	食事の献立は、利用者の意見を取り入れながら、職員が作成している。皮むき等下ごしらえや食後の台拭きを利用者にしてもらっている。献立に季節のものを取り入れたり、刺身や白玉ぜんざいを職員と利用者で一緒につくり、食事を楽しめる工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては法人管理栄養士に相談を行っている。水分をあまりとりたがらないご利用者様には飲み物を工夫し水分摂取量が増えるよう支援している。また、食量や形態などは嚥下状態や咀嚼状態をよく観察し個々に応じた刻み・ミキサー・トロミ食を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがいをやっている。自分で不十分な場所が場所は介助にて残渣物を除去している。また、月に1・2度回診にて歯科医師と連携を図り、食事に対するクオリティが向上するように必要に応じて受診を進めている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、ご利用者様の排泄パターンを把握するように努めている。排泄パターンを把握することにより、排泄の失敗がないようにトイレの声掛け、誘導を行い、トイレでの排泄が出来るよう努めている。また、紙パンツ等の使用を極力避け布パンツに移行している。	職員は、利用者の排泄パターンやトイレに行きたいサインを把握し、トイレ誘導を行っている。利用者の様子に合わせて、移乗や排泄動作の介助をしている。夜間も声かけをして、トイレ誘導をしている。状況をみながら、パットやマットの種類や使用する時間帯を常に見直している。入居後紙パンツから布パンツに変更できた利用者が数名いる。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、運動、水分補給を促し毎日に排便状況の確認を行っている。便秘傾向あるご利用者様にはヨーグルトや牛乳等の乳製品やオリゴ糖の活用により自然排便に繋がるように努めたり、主治医に相談し服薬等の対応を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は、毎日できるように準備し、個人の希望を尊重しながら毎日、あるいは1日おきに入浴を提供している。また、ご利用者様の好みのお湯の温度を把握したり、冬至には昔からの習慣である柚子湯にしたり時には入浴剤を使用する等工夫しながら気持ちよく入浴していただけるよう努めている。また、羞恥心の配慮として1人ずつ入っていただき出来ない事のみ介助を行っている。	利用者は2日に1回入浴している。浴室はいつでも使用できるように準備している。浴室にはリフトがあり、利用者は皆浴槽に入ることができる。入浴を嫌がる利用者には、声かけの工夫や声かけのタイミングをみながら、入浴の声かけをしている。しょうぶ湯やゆず湯、属蘇湯をしたり、入浴剤を入れて、入浴を楽しめるようにしている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息の時間は個人差がある為個人の習慣を重視し好きな時間に就寝・起床をして頂いている。夜間不眠傾向の方は日中なるべく活動していただき安眠できるように支援している。利用者の状況に応じて、午睡の時間を設けているなど個別の対応を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の内容がスタッフ全員が理解できるように薬の一覧表としてファイルし、いつでも確認できるようにしている。ファイルには薬の名前・写真・効能・注意事項・副作用等が記載されている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において役割を持っていただくことによって生きがいや楽しみを感じて頂けるよう支援している。また、特技や趣味をできる場を提供することで気分転換や残存機能の維持が出来るよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外の空気が吸えるように支援している。進んで外にでようとされない方にも声掛けを行い外出にお誘いしている。しかし、コロナウイルスの影響で買い物や外食は難しい状況であるため少人数ずつで季節のお花を見にドライブに行く機会を設けている。	コロナ禍のこともあり、外出は数人で、桜・紫陽花・コスモ等季節の花見のドライブに行っている。気候がよい時期は、利用者と一緒に近くの神社まで散歩に行っている。コロナ禍前は家族の協力を得て、外食や外出をしてもらっていた。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心されるご利用者様がいる場合には家族の了承を得て所持していただいている。また、入居時にお小遣いをお預かりしているため、外出時など自分の好きなものを購入するなど自由に使用できるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用は可能な範囲で利用していただき必要に応じてスタッフが支援している。年賀状をスタッフが支援しながらご家族あてに書いていただいている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音光がないように配慮している。換気や加湿を行いながら適温・除湿が保てるよう調節している。食事をする場所やソファの場所はご本人の意思で確定されている場合もあり、馴染んだ場所で落ち着いて過ごしていただいている。季節感を感じて頂けるようご利用者様と一緒に壁画製作を行い飾っている。	リビングは光がさして、明るく、居心地がいい空間になっている。季節に応じて壁画や飾り物を利用者と職員が作成して飾っている。職員がもってきた花を利用者と一緒にかけている。テレビは通常はつけているが、食事の時は、音楽を流している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを多く配置しているので気の合った人とゆっくりお話をする環境や一人で日光浴をしながら読書をするくつろいだ環境で思い思いの時間を過ごしていただくことが出来ている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものや馴染みのあるものをもって来ていただくよう説明し、家具等以外にも写真等も持ち込まれている。居室内での安全な生活が出来るように利用者・家族と相談しながら配置などを考えている。	利用者の居室には、馴染みの家具、仏壇、テーブルやソファ、椅子等が持ち込まれている。利用者や家族の写真、利用者が作成した作品が飾っており、利用者らしい居室になっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂など自分の残存機能を活かした生活が出来るように手すり等使用しやすいものを設置し、安全に生活が出来てくれるよう工夫している。また、ネームプレートは利用者の目織に合わせて設置することで場所の確認や理解が出来るように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域のために 地域とともに』の法人の理念を職員研修会で全員で共有を行っている。又、「家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活が送られる様思いやりを持って寄り添いながら支援します」という事業所理念を掲げ、支援するよう心掛けている。事業所の理念はユニット内などに掲示しいつでも目に入るよう工夫をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の移動売店の販売所として施設を提供し利用者様も売店を利用するなどして地域の方々と交流していたが、コロナウイルスが流行するとともに地域との交流が減ってきている現状である。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本来であれば、運営推進会議などで話し合いを行い、地域の皆様に向けた介護教室を開催するなど計画していたが、コロナ禍において、難しい。12月にコミュニティセンターにてグループホームと・看護小規模について説明させていただく機会を頂き交付することが出来た。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響で運営推進会議は書面上での開催になることが多かった。日常生活の状況や行事等の報告を、意見や要望を頂きサービスの向上に努めている。11月には開催し、意見交換を行った。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所担当職員に参加して頂き、意見等を頂いている。書面上の開催の際は電話等で話をしたり、相談等あるときには市役所に直接お話に行き協力関係が築けるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人本部開催の身体拘束廃止委員会に参加し、常日頃から拘束が行われていないか確認し身体拘束がないように努めている。拘束の具体的な行為について新人研修や勉強会・職員研修会等で学ぶ機会を設け、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体的虐待のみならず心理的虐待等が行われないか確認し、未然に防ぐよう取り組んでいる。また、利用者の尊厳を傷つけたり残存機能維持の機会を奪ったりするような取り組みがないか確認している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については職員研修会や勉強会で制度について学ぶ機会を設けている。また、制度についていつでも触れることが出来るようにパンフレットを常備している。成年後見人についても資料を閲覧出来たり学ぶ機会を設けている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等書面にて提示し、内容の説明を行って不安のないように質問や意見を聞きながら対応をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口を重要事項説明書を通して、入居時に説明している。また、ご家族が要望等を気軽に話せる関係性の構築に努めている。コロナウイルスの影響で面会の制限時、家族の要望によりタブレット端末を利用しての面会を行った。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファレンスやユニット会議等で職員からの提案や意見等を集め、利用者本位の運営が出来るように努めている。日頃より職員同士のコミュニケーションが円滑で言い合える職場環境は整っている。賞与時の評価表などにも記載している。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が意欲をもって職務に当たることが出来るように職員も楽しみや、やりがいを有するよう努めている。状況に応じて面談したり普段の会話から心身の健康管理に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に当たっては広く募集を行い、公正な採用選考を行っている。幅広い年齢の職員がご利用者に係わることでご利用者様の生活環境が良くなるように努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員にはご利用者様の尊厳を守ることを教育している。カンファレンスでも一人一人の尊厳を大切にされたケアが行われているか確認している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人本部で職員研修会を行っている。また、新人職員にはエルダー制度や研修を行いスキルアップに努めている。頃ねウイルスの影響で研修棟も少ない状況であるが出来るだけ外部の研修にも参加できるように努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会があれば、状況に応じてスタッフ参加してもらうなどの取り組みを行ってきた。しかし、今の時期、研修会や交流についてはできていないので、今後頑張ることで質の向上を目指したい。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の生活歴や現在の様子、また、不安や要望等面談を通じて、把握するよう努めている。また、担当のケアマネジャーやソーシャルワーカーと連携し、ご利用者様のニーズに応じられるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談がある場合には、ご利用前に必ずホームに来館していただき説明を行うとともに不安や希望もお聞きしている。また、積極的にコミュニケーションを図るよう心掛け、意見や要望が言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所のサービス以外の選択肢も視野に入れ、必要とされるサービスの情報が提供できるようにケアマネージャーやソーシャルワーカー等と連携を図っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やご利用者様のこれまでの経験を生かした知恵などを通して支えあう関係であるように努めている。調理のお手伝いやその他、ご協力いただきながら共同生活を営んでいる。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃よりご利用者様の状況をお伝えするよう努めている。また、思いや意見なども、お聞きすれば可能な中で、ケアの変更などにつながるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の近所の方などのコミュニケーションは、なかなか難しいが、入居後もかかりつけ医への病院受診を行うなど、これまでの生活を継続した、馴染みの関係を支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立される利用者がいらっしやらないようにレクリエーション等への声掛けを行い他の利用者との交流が出来るように促している。また、難聴等でコミュニケーションを図ることが難しい場合にはスタッフが間に入り円滑にコミュニケーションが図れるよう配慮し利用者同士が良い関係性を築けるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、ご相談等を出来るよう関係性に努めている。利用者様のみならずご家族のフォローする関係が継続していくことを説明し安心していただけるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人ひとりの希望される暮らしを本人や家族の思いや意向を聞き取っている。本人から直接思いを確認できない場合は日ごろの係わりの中から本人の思いや意向を感じ取って利用者本位の個別ケアが出来るように検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、趣味や特技、これまでの生活スタイル等、ご利用者様やご家族から情報を集め、できる限りこれまでの生活を継続し、その方らしい生活が出来るよう取り組んでいる。利用前のケアマネージャーやソーシャルワーカーとの連携を図るよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前に聞き取りした情報を基本とし、生活していただく中で利用者様と接し、具体的な情報が収集できるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画には、かかりつけ医や職員等の意見を取り入れ、反映できるよう、また、本人や家族の希望に添えるようなプランを作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中のケアの実践や気づきなどエピソードで記録などを記入している。職員全員が情報を共有し介護計画を見直しに努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の生活の中での変化を、カンファレンスなどを通してアセスメントしている。良いと思うことは、意見を交換し合って、ご利用者のプランにつなげられるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、コロナ禍の折、地域資源を生かすといった内容の活動は実施できていない。今後は、これまでの生活様式が通用するかも不透明であるため、検討しながら支援していきたい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との連携を大切にしつつ、ご利用者や本人様が希望される入所前から利用されている医療機関の受診をして頂いている。また、緊急時における協力病院との体制についても説明をしたうえで、安心して希望に添える医療機関を選択している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1階施設の看護師等と連携を図り、些細な事でも相談し助言を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、医療機関（ソーシャルワーカー・看護師）、ご家族と密に情報交換を行い早期退院が出来るように連携している。また、退院時医師や看護師等からの助言を頂きながらケアを行い再発防止に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアの経験はないが、入居時に重度化や終末期の在り方についての説明を行っている。利用者やご家族の状況変化に細かな調整や協力病院やかかりつけ医等と連携し、重度化や終末期に対応できる体制を取ることが出来るよう努めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを通して、急変時や事故発生についての確認を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの作成を法人で行うことで見直しを行っている。定期的に防災訓練を行っている。地域との連携は、今後の課題です。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時に、個人情報保護についての確認を行っている。訪室、入浴、排泄等時には、プライバシーを損ねることがないように声掛けや対応に心掛けている。プライバシーに関わることは大声で話したりすることを慎むように努め、職員間でも注意しあっている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を尊重し、傾聴や自分の意思や希望を伝えることが出来るよう寄り添いコミュニケーションを図っている。また、意思の表現が少ない方も可能な限り自己表現ができるよう声掛けの工夫や表情から読み取る等の取り組みを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	催事以外、特に日課を決めずにその日の天候やご利用者様の希望に沿って少人数もしくは個別の対応が出来るように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等、本人の好みの服を頂ける等支援している。髪型に関しても本人の希望に沿ってのスタイルになることを重視している。自分で訴えない方も、定期的にカットサロンを利用できるよう配慮している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の状況に応じて、食事の準備や片付け・野菜の皮むきなどのお手伝いを依頼している。季節を感じていただけるような食材を献立に取り入れたり、ご利用者様の意見を頂きながらマンネリ化しないよう改善に努めている。また、自分で好きなお弁当を頼んでいただく機会を設け、普段とは違う食事の雰囲気作りも取り入れてみた		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては法人管理栄養士に相談を行っている。水分をあまりとりたがらないご利用者様には飲み物を工夫し水分摂取量が増えるよう支援している。また、食量や形態などは嚥下状態や咀嚼状態をよく観察し個々に応じた刻み・ミキサー・トロミ食を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがいをやっている。自分で不十分な場所が場所は介助にて残渣物を除去している。また、月に1・2度回診にて歯科医師と連携を図り、食事に対するクオリティが向上するように必要に応じて受診を進めている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、ご利用者様の排泄パターンを把握するように努めている。排泄パターンを把握することにより、排泄の失敗がないようにトイレの声掛け、誘導を行い、トイレでの排泄が出来るよう努めている。また、紙パンツ等の使用を極力避け布パンツに移行している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、運動、水分補給を促し毎日に排便状況の確認を行っている。便秘傾向あるご利用者様にはヨーグルトや牛乳等の乳製品やオリゴ糖の活用により自然排便に繋がるように努めたり、主治医に相談し服薬等の対応を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は、毎日できるように準備し、個人の希望を尊重しながら毎日、あるいは1日おきに入浴を提供している。また、ご利用者様の好みのお湯の温度を把握したり、冬至には昔からの習慣である柚子湯にしたり時には入浴剤を使用する等工夫しながら気持ちよく入浴していただけるよう努めている。また、羞恥心の配慮として1人ずつ入っていただき出来ない事のみ介助を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息の時間は個人差がある為個人の習慣を重視し好きな時間に就寝・起床をして頂いている。夜間不眠傾向の方は日中なるべく活動していただき安眠できるように支援している。利用者の状況に応じて、午睡の時間を設けているなど個別の対応を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の内容がスタッフ全員が理解できるように薬の一覧表としてファイルし、いつでも確認できるようにしている。ファイルには薬の名前・写真・効能・注意事項・副作用等が記載されている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において役割を持っていただくことによって生きがいや楽しみを感じて頂けるよう支援している。また、特技や趣味をできる場を提供することで気分転換や残存機能の維持が出来るよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外の空気が吸えるように支援している。進んで外にでようとされない方にも声掛けを行い外出にお誘いしている。しかし、コロナウイルスの影響で買い物や外食は難しい状況であるため少人数ずつで季節のお花を見にドライブに行く機会を設けている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心されるご利用者様がいる場合には家族の了承を得て所持していただいている。また、入居時にお小遣いをお預かりしているため、外出時など自分の好きなものを購入するなど自由に使用できるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用は可能な範囲で利用していただき必要に応じてスタッフが支援している。年賀状をスタッフが支援しながらご家族あてに書いていただいている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音光がないように配慮している。換気や加湿を行いながら適温・敵湿が保てるよう調節している。食事をする場所やソファの場所はご本人の意思で確定されている場合もあり、馴染んだ場所で落ち着いて過ごしていただいている。季節感を感じて頂けるようご利用者様と一緒に壁画製作を行い飾っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを多く配置しているので気の合った人とゆっくりお話をする環境や一人で日光浴をしながら読書をするくつろいだ環境で思い思いの時間を過ごしていただくことが出来ている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものや馴染みのあるものをもって来ていただくよう説明し、家具等以外にも写真等も持ち込まれている。居室内での安全な生活が出来るように利用者・家族と相談しながら配置などを考えている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂など自分の残存機能を活かした生活が出来るように手すり等使用しやすいものを設置し、安全に生活が出来るよう工夫している。また、ネームプレートは利用者の目織に合わせて設置することで場所の確認や理解が出来るように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの		
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある		
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある		
			<input type="radio"/>	③たまにある		
			<input type="radio"/>	④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		